
自殺する者される者

結城陸空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自殺する者される者

【Zマーク】

Z7410B

【作者名】

結城陸空

【あらすじ】

とある女性は今までに飛び降り自殺をしようとしていた自殺をするもの。とある女性はまさに天にも昇る気分だった自殺されるもの。二人を結ぶ運命の糸。

第一話 殺【セツ】

あたしの名前は太田美緒、21歳。

IMOの名前で活動するヨーロジシャンでモデルの活動にも勤しんでいる。たくさんのファンがいて、たくさんの仕事があって、芸能界は厳しいところだけどしても充実している。

そんなどたちは今まさに、ビルの屋上に立っている。まるで自分が世界一高い場所に立っているのではないかと錯覚するほどに高いここは、日本屈指の高層ビルで、落ちたら人なんて一溜まりもないだろう。やうあたしは今まさに自殺をしようとしている。なぜ自殺をしようとしているのか。それには、あるあたしの願いが詰まっている。

「美緒ー！ 今日はお疲れ、明日も朝早いから今日は帰つて早く寝なさいね」

あたしに話しかけてきているのはマネージャーである、久保あき。いつもスーツなんか着ていてとてもしつかりしていてとても頼りになる人だ。あたしよりも15歳も歳が上で母親のいないあたしにとつてあきさんは母親のような存在だ。いつもあたしの心配をしてくれるあきさんのおかげであたしは安定して芸能活動が出来る。

でももちろん全てがあきさんのおかげな訳ではない。あたしもこの世界で生き残るために毎日努力している。毎日適度に運動して、ちゃんとケアもして、体調管理に気を使って、ストレスを溜めない

ように趣味を持つてたまの休日にはリフレッシュしている。

友達ともたまの時間がある時に会って、カラオケに行ったりして遊んでいる。残念ながら彼氏はいないけど好きな人はいるし、今はこの片思いの気持ちでいることが楽しい時期だから告白はまだ先になりそうだ。

今日もあきさんには早く寝なさいって言われたけど、家に帰つてからもやることはたくさんある。

毎日のケアをきちんとやらなければならない。毎日たくさんの人があたしを見る。そんな人達の気分を害さないためにもファンの期待を裏切らないためにもあたしは綺麗でかわいくなくてはならない。でもこれは苦痛なことではない。自分自身も綺麗でいたいから頑張れるのだ。綺麗でいたらとても気分がいい。見た目が綺麗なら自然と心も綺麗になる。

あたしは自慢じゃないけど友達思いだと言われる。これだけ忙しいのに友達の誘いを断ることはほとんどない。あたしも友達といるのは楽しいし、嫌いやないから当然なんだけど。友達になにかあれば相談にも乗るし、今思えばずっとたくさんの方達に囲まれてきた気がする。

きつとあたしの人生が充実しているのはたくさんいい人に出会えてきたからだらう。

あたしも人並みには挫折している。大好きだった人に振られたこともあるし、プロデューサーさんに怒られたこともある。変なスキヤンダルでマスクに問い合わせられたこともあった。それでもいつもあたしの周りには友達やあきさんがいて助けられてきた。だから

その恩を返すためにあたしはいつまでも綺麗でいたいと思つ。

ずっと綺麗でいること。それがあたしの人生の目標であり、あたしの運命だ。

でも、だからこそあたしは死ななければならない。

今の世の中、自殺をする人だけだ。イジメられて自殺をする人、仕事がうまくいかなかつたりして自殺する人。みんな揃つて命を軽く見すぎている。命は一つしかない。死ねばなにも残らない。全てが無になる。たくさんの人人が悲しむし、絶対やつてはいけないことだ。

でも。

それは、一般レベルでの話。あたしの場合は自殺をする必要がある。理由は綺麗でいなければならぬから。あたしが死ねばそれはあたしの時間が止まることになる。つまり『おばあちゃんになることはない』。おばあちゃんにならなければシワもできないしそばかすも出来ない。皮膚のたるみもない。ずっと今の綺麗なままでいることが出来る。死ねばたくさんの人人が悲しむだろう。でもそれはほんの一時、悲しみは時間が解決してくれる。時間がたてば綺麗な今があたしだけが永遠に残ることになる。

そう、あたしの願いはただ一つ。歳をとり綺麗でなくなる前に死んで綺麗を残すこと。それがファンのためでありあたしの生きたい死に方。あたしは最高の喜びの中で自殺する。

だが、この自殺は死ぬのではない。永遠に生きるための自殺なのだ。

そして、あたしはこの高層ビルから飛び降りた。

第一話 生【じゅう】

あたしの名前は森本由里、21歳。

地味であまり目立たないあたしは幼い頃から、いわゆるその他大勢の位置で生きてきた。可もなく不可もなく。友達も特別多いわけではないがいなわけでもなく。彼氏がいないわけでもなく、振られた経験もある。

そんなあたしは今まさに天にも昇るような気分だ。まるで自分がこの世の全ての幸運を掴んだような気持ち。人生で最も幸せな瞬間とはこのことだろう。なぜあたしがこんなに幸せなのかそれにはある理由がある。

「今日は楽しかったね。お疲れ」

あたしに話しかけてきているのは、あたしの彼氏である井上隆一。 同い年の彼で、いつも元気で明るくて前向きでしつかりしていて頼りになる。あたしは彼のことが大好きだ。彼も特別かっこいいわけではないのだが、とてもやさしくいい人だ。彼といふといつも楽しい。今日も彼とのデートでとても楽しかった。

そんなあたしはある願いを持っていた。いつか実現したら最高だろうなといつも思っている願い。それは誰もが抱く願い。結婚したい。ずっとこれから一生彼と一緒にいたい。いつの日からあたしはそんなことを願うようになっていた。

告白してきたのは彼だった。それまでもあたし達は友達として付

き合つてきたのだが、彼の突然の告白により付き合つことになった。

とは言つてもあたしも実は彼のことが好きだつた。彼のことで友達に相談したり、悩んだりしていた。どうしたら振り向いてくれるのだろう。いつもそんなことを考えながら。今思えば友達の存在が彼と付き合つきっかけになつたのかも知れない。あたしの恋のためにいろいろ協力してくれたりしてくれたし。

あたしは恵まれているのだろう。信頼できる友達もいるし、別に貧乏なわけでもない。大学にも行つてゐるし、サークル活動にも勤しんでいる。別に忙しいわけじゃないけど普通に充実した人生だと思う。

今の世の中自殺をする人がたくさんいるけど一体なにが気に入らないのだろう。あたしの人生も特別華やかではなかつた。でもそれなりに楽しい人生で充実している。生きていればきっと楽しいこともあるはずなのに。簡単に死を選ぶ人の気持ちはあたしには理解できない。簡単に選んだわけではなくとも理解できない。

あたしは死ぬなんて絶対に嫌だ。今のこの瞬間の幸せ。そしてこれから訪れる幸せ。それらのこれから的人生が楽しみで仕方がない。彼は本気であたしのことを想つてくれている。今日それが分かつた。デートが終わつての帰り道。彼から言われた言葉は人生最高の幸せの瞬間だった。

それは彼からのプロポーズ 。

あたしの願いが叶つた瞬間だった。彼との結婚。これから待つてゐるであろう幸せな生活。それを想像するだけであたしは幸せな気分になれた。

そんなあたしは、彼と別れての帰り道。一人、周りから見ても分かるくらいの幸せの雰囲気を醸し出し歩いていた。ふと足元を見ると、スニーカーの靴がほどけている。あたしはそれを結いなおすためにその場にしゃがみこんだ。

第二話 結【むすび】

もう少しで人生最高の瞬間が訪れるこ^トを確信して^{いる}女性、太

田美緒[。]

高層ビルから落ちていく彼女の身体は時速に換算すると一体いくらで^{いる}のだろう。飛び降りることにまったく抵抗のな^{かつた}彼女だが、実際飛び降りてみるとそのスピードに驚き、少しだけ怖がついていたのだが、もう少しで訪れるであろう至福の瞬間を考^えるとそんな恐怖もかすんで見える。

頭から落ちていく彼女は、ふと地面を見る。もう少しで自分がぶつかり死ねる地面。だがそれを見た瞬間彼女は驚愕することになる。自分がちょうど落ちるであろう場所には、一人の女性がまるでうずくまるようにしゃがんで^{いる}。一体なにをして^{いる}のか、彼女には分からなかつたが、一つ言えることはこのまま落ちていけば、確實に下にいる女性に直撃し、下の女性も死んでしまう。

自分の願いが果たせる自殺だが、他の人間を巻き込むわけにはいかない。だが、すでに空中に身を投げて^{いる}のでいまさら方向を変えたり止めたりなんて出来ない。自分が落ちる時にうまく避けてくれることを願うしか彼女にはできなかつた。

これから^の未来に人生最高の幸せが訪れる^と確信して^{いる}女性、

森本由里[。]

彼にプロポーズされたデートでの帰り道、突然ほどけた靴紐を結

んでいる。いつもより手間取つてはいるがもう少しで結び終わる。

だが、彼女は自分の上空から迫る死の恐怖に気がついてはいない。彼女は靴紐を結び立ち上がつた。その瞬間周りが騒がしいことに気がついた彼女はその場で周りを見渡す。なにを騒いでいるのだろうか。彼女はまったく理解できないまま叫んでいる人達の言葉に耳をやつた。よく聞くと彼らは自分に向かつて言つてているのだといふことに気がついた。

ようやく彼らの言つている言葉が理解できた彼女。みんなは『上!』とか『あぶない!』とか言つてはいる。そんなみんなの声に反応して彼女は上を見る。

彼女の目の前にはどこかで見たことのある女性の顔が見えていた。でもそれは一瞬だけだ。次の瞬間、ビルから飛び降りた女性と下にいた女性は直撃した。一人共意識を失つたために目の前が真っ暗になつた。

死んで幸せを掴もうとした女性は、結果として死ぬことなく生きながらえた。しかし、脳に重度の衝撃を受けたために意識が永遠に戻ることのない植物人間となつてしまつた。きっと彼女はこれからも意識を取り戻すことなく、歳を重ねていくのだろう。永遠とも言える暗闇とともに。

生きて未来の幸せを掴もうとした女性は、直撃を喰らい即死だつた。

まつたく別の未来を目指して幸せを共に掴もうとした一人の女性は、自分の思いとは裏腹の結末を迎えた。

だが、彼女達は今、まったく同じことを考えて居るだろ。

「いんなはずじゃなかつた」

……。

完

第二話 結【むすび】（後書き）

読んでいただきありがとうございました。
投稿してから思つたんですが、まさかこんなはずではなかつたです。
なにか違つ。変な違和感があります。

ともあれありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7410b/>

自殺する者される者

2010年10月9日12時29分発行